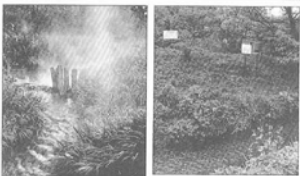


【ホトケドジョウ】

多摩地域で「おぼめ」などと呼ばれている魚がいます。不老川流域での呼び名は「おぼば」。わき水が上流にある小川などに棲むドジョウの仲間、ホトケドジョウのことです。

ドジョウとは長いのが相場ですが、この「おぼば」はずんぐりむっくり、また、



東久留米市南沢湧水 (写真: 小松原昌男)

(財)埼玉県生態系保護協会 堂本 泰章

よく水草にもたれかかってあくびなどをしていす。分布は、世界中で日本だけ。青森県を除く東北地方〜三重県・京都府・兵庫県あたりに棲んでいます。関東以外では極めて離散的で、湧水の多い新河岸川流域をはじめとする武蔵野の地は、この「おぼば」にとってふるさとのようなところなのです。

しかし、すみかである湧水の多くは枯渇し、それに続く水路が護岸化が進んでいます。絶滅の危機に瀕した動物の現状を記した『さいたまレッドデータブック』によると、ホトケドジョウは絶滅寸前に位置付けられています。

どこかの世界のオマケ(失礼!)のように、たくましく復活してくれればと願って止みません。

新河岸川流域イベントスケジュール

- 11月9日祝 雨中止
やまゆり荘に9:15集合 / (解散1:00ころ)
【市内循環バス 武蔵藤沢駅9:00発】
【大森調池に森をつくろう】
埼玉県生態系保護協会入間支部
不老川流域川づくり市民の会
連絡先: 日比 0429-63-7394
- 11月9日土・9日日
【新河岸川を歩く(part3) 赤間川を源流まで】
(天田 049-471-1338) 雨天中止
川越市駅改札口集合 9:00
【空堀川の冬鳥観察会】
空堀川に清流を取りもどす会 (小林 0423-91-4003)
新秋津駅集合 10:00~12:00
【柳瀬川クリーン作戦】
柳瀬川をきれいにする会 (安田 0429-44-2633)
- 11月6日木
【野火止公民館まちづくり公開講座 (新座市)】
10:00 菅沢二丁目フィールドアスレチック前集合
(野火止公民館 049-478-4523)
- 11月9日日
【日野市黒川清流公園見学】 (湧水と雑木林)
(9:00 J戸新座駅構内集合、切符は豊田まで)
- 11月12日火
【第2回空堀川クリーンアップ作戦】
空堀川に清流を取りもどす会 (小林 0423-91-4003)
マリア幼稚園前集合 10:00~12:00
- 11月18日日
【身近な川のフォーラム'97】
新河岸川水系連絡会 (藤井 048-474-2785)
東村山市秋津公民館 13:00~16:00
- 11月16日土 9:00~11:30
【吉岡山山観察会とゴミ拾い】
集合場所: 吉岡小学校 駐車場 (無料)
主催: 熊谷の環境を考える連絡協議会
連絡先: 依田 TEL・FAX 0485-24-7853
金内 TEL・FAX 0485-20-2863
(豚汁のサービスあり、おわん、はし、おにぎり持参)
- 11月22日土 9:00~11:00
【第10回赤坂の森クリーン活動】
集合場所: 狭山市榎葉・赤坂の森公園
持ち物: 軍手 (無料)
主催: 自然を守る狭山リサイクルの会
連絡先: 吉村容子 TEL・FAX 0429-53-2482
- 11月22日土
【魚の目から見た川の姿】 講師: 宮塚芳輝
東村山市水と緑の市民懇談会 (宮本 0425-67-3346)
時間: 14:00~16:00
- 11月30日日
【市民がつくる志木市の環境プラン】
講師: 須賀明良(エコ・ビジネスネットワーク) 他
(毛利 048-471-4275) 10:00~16:30
志木市市民会館 (バウルシティ) 101号室
※資料代 200円程度
- 11月30日日
狭山丘陵大学 第7回【狭山丘陵と人々の暮らし〜民族学の視点から〜】
講師: 田村美次郎 (武蔵野美術大学教授)
東大和市立狭山公民館 13:30~15:30
- 12月13日出 午後より
【講演会「ゴミ問題と廃棄物処分」】
講師: 田嶋征三氏
会場: 嵐山国立成人教育会館 (予定)
主催: 生活クラブ生協比企支部
連絡先: 甲斐秀子 TEL.0483-54-5837

情報をお寄せください!
見て、聞いて、歩いて感じたことや他の人にも伝えたいこと、これからの予定や参加者募集のお知らせ、チラシなどを郵便またはFAXでお送りください。
〒351 朝霞市朝志ヶ丘3-4-2-201
新河岸川フォーラム'97朝霞事務局
TEL/FAX. 048-474-3504

埼玉と東京を結ぶ水の道、新河岸川。

新河岸川は、埼玉県川越市の西部に源を発し、武蔵野台地を流れる十数本の支川を集め、台地の裾の低平地を荒川とほぼ平行に南東に流下しながら、東京都北区の岩淵水門付近で隅田川に合流しています。

3区9市1町に及び、流域面積は411km²(山口、村山貯水池流域を含む)、流路延長34.6kmの一級河川です。昔から、埼玉と東京を結ぶ川として、流域と都市の発展に貢献し続けています。

建設省関東地方建設局
荒川下流工事事務所調査課

●流域諸元表

流域面積	411.0km ² (山口、村山貯水池流域 21.09km ² を含む)	流域人口	200万人(昭和53年) 214万人(昭和60年)
流路延長	34.6km	人口密度	5,129人/km ² (昭和53年) 5,495人/km ² (昭和60年)
地質	ローム	市街地	167.32km ² (42.91%) (昭和60年)
土壌	黒ボク土壌群 (関東ローム層富黄質火山灰土)	農村型集落	38.77km ² (9.43%) (昭和60年)
植生	シラカシ、クヌギ、コナラ、アカマツ(台地部)	水田地域	40.66km ² (10.43%) (昭和60年)
		畑地・森林・荒地	143.16km ² (36.72%) (昭和60年)
		分水嶺標高	T.P.+180m(狭山丘陵)
		感潮区間	隅田川合流点より約16km
		関連区市町	3区20市3町
		流域勾配	本川(1/1,000~1/3,000)、支川(1/100~1/400)
		市街化区域	約230km ² (約60%)



新河岸川流域通信 Vol.0 THE SHINGASHI BASIN NEWS

平成9年10月 発行/新河岸川フォーラム'97 事務局/朝霞市朝志ヶ丘3-4-2-201 TEL/FAX048-474-3504



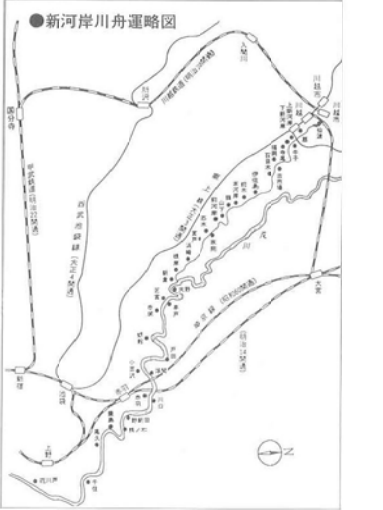
- 新河岸川舟運のあらし 斎藤 貞夫
- 流域人インタビュー 小島 正彦
- 流域の街道を行く 広野 淳
- 流域情報
- 流域の生き物/埼玉県生態系保護協会
- 川づくり情報/建設省荒川下流工事事務所



★イラスト/毛利将範

新河岸川舟運のあらし 斎藤 貞夫

埼玉県川越市付近で赤間川その他の河川を合わせて荒川とほぼ並行して流れ、東京都北区の岩淵水門で荒川本流と合流し隅田川となる川。流長約26キロ。この川は、江戸時代初期から昭和初年までの約三百年間、川越と江戸を結んだ舟運が発達し、貨客を運び大いに利用された。そのはじまりは、寛永15年(1638)正月、川越仙波東照宮が大火のため消失。その再建資材を江戸から新河岸川を利用



新河岸「伊勢安」の船着場(大正2年8月)

して運んだことによる。この舟運が本格的に開始されたのは、松平信綱が川越藩主になってからで、領内の伊佐沼から流れる川に多くの屈曲をつけ、舟の運行に適するよう水量保持の工事をした。川越五河岸(上・下新河岸・扇・寺尾・牛子)をはじめ、下流に福岡・吉市場・百目木・伊佐島・蛇木・本河岸・鶴河岸・山下・前河岸・引又・宗岡・宮戸・根岸・新倉河岸といった河岸場が次々に開設され、積問屋が建ち並び、新倉、「川」の口で荒川に合流していた。舟の種類は、並船・早船・急船・飛切船などがあつた。並船は一応の終着地の浅草花川戸まで1往復7・8日から20日ほどかかる不定期な荷舟。早船は乗客を主として運ぶ屋形船。急船は1往復3・4日かかる荷船。飛切船は今日下って明日上

がるという特急便であった。舟の形は普通「高瀬船」で7、80石積み、川越方面からは俵物(米・麦・穀物)、さつま芋や農産物、木材などを運び、江戸からは肥料類をはじめ、主に日用雑貨を運搬した。舟運の全盛期は、幕末から明治初期までであった。明治28年(1895)に川越鉄道、同38年に川越電気鉄道、更に大正3年

(1914)に新河岸川とほぼ並行して東上鉄道が開通すると、積荷が鉄道に奪われ一段と舟運が衰退して行った。

同時に大正9年より昭和6年まで洪水防止の為河川改修が行われた結果、流路が10キロも短縮され、水量が保てず、舟の運行に支障を来たし、舟運は終わった。

流域人インタビュー
川は舟が通るとききれいになるんですよ! 小島 正彦

和船を復活させた新河岸商売会の小島さん(エスポア池留)にお話を伺いました。商売会で和船を造ろうということになったいきさつを教えてください。

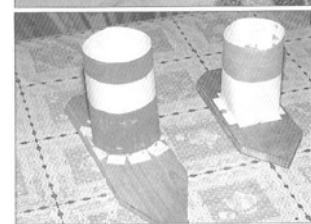
学校の先生が、ここに河岸場があってなんて話しても、生徒はボカンとして聞いている。そう言われたって何もないんだから。それで、少しでも生徒の勉強の足しになればなって。昔の高瀬船のようなものは、水深や費用の関係で無理だから、和船の平田舟でも作って実際に乗ってもらおうと思ってね。それがきっかけ。

それともう一つ。この地区で昔灯籠流ししてのをやってみて。沢田甚工門って松平伊豆守の時にこの川を作った人のお地蔵さまがそこにあるんだけど、その霊を慰めるためだったんです。灯籠流して、普通は下へ流しちゃうだけで回収はしないんだけど、この地区では、川を汚さないようにみんな回収しているんですよ。上から流して下で舟で回収する。それが、昭和30年代後半に最後の舟が壊れてから、そういうこともみんな



川掃除をしてね。子供の頃遊んだ和船にまた乗れるなんてって、喜んでもらえました。
今考えているのは、昔あった灯籠流しを復活させるために、来年5月頃ミニ灯籠流しをやってみようかなって。昔は灯籠のコンクールもあって、たらいや風呂桶まで流したらいいですよ。でも、そんな大きいもんじゃなくて、幼稚園や小学校の子供たちに板と紙で簡単に作ってもらって流したいと思っています。

川は舟が通るとききれいになるんですよ。竿をさすことで底の泥やヘドロがかき回されてガスが抜けちゃうんでしょうかね。こども、舟の通り道になってるところだけキンギョソウが生えてきました。



流域の街道を行く
新河岸川の歴史と文化
あらまし(その1)
広野 淳

新河岸川は埼玉県の「母なる川」荒川水系のひとつとして原始時代から人々の暮らしを培ってきた重要な河川である。かつて江戸時代初期の頃までは「内川」と呼ばれ、流域の集落の生活用水や水田耕作のための灌漑用水などとして、また狩猟や漁業の場としても自然の恵みに富み、食生活に大きな影響を与えてきた経緯がみられる。

また近世に至っては、寛永15年(1638)に「川越の大火」で焼失した仙波東照宮を再建するための建築資材を江戸から船で運んだことから舟運がはじめられた。

次いで、正保4年(1647)に川越藩主松平伊豆守信綱が内川沿いの要所に新しく河岸場を設けたことに因み、内川を「新河岸川」と改称する。以来、新河岸川は舟運の発達で世に知られるようになった。

次に、本川の概要について述べてみると、まず源流は狭山丘陵の浸透水とされ、狭山・川越地方の武蔵野台地に求めている。なかでも本流の水源地については諸説もあるが、狭山市の「原井の堰」を有力視したい。

このほか上流の源流を形成する河川に狭山市の窪川、入間市の不老川、川越市の九十九川などがあり、これらの河川は川越市内で新河岸川の本流に合流する。さらにこれより約7キロメートル下流の志木市で柳瀬川、朝霞市で黒目川と越戸川、和光市で白子川などのおもな河川を合流する。これより東京都内に下流し、前谷津川・出井川などの小河川と合流し、終点の岩淵水門に到流する。この間の流路は上流の狭山丘陵附近を除き、比較的平坦部を下流するため、緩やかな流れを呈し、全長51.2キロメートルを測る。なお、これより先方は隅田川となる。



お知らせ フォーラム
身近な川を調べて

一斉水質調査から見えてきたこと
新河岸川流域での「身近な川の一斉調査」は今年6月で2年実施しました。この調査結果から見えてきた「身近な川の姿」について考えてみませんか。

日時●11月16日(日)
13:00-16:30
会場●東村山市立秋津公民館
東村山市秋津町2-17-10
☎0423-91-6166
内容●【第1部】調査報告
新河岸川水系/多摩川水系/
荒川上流/荒川下流
【第2部】意見交流
【問合せ】新河岸川水系連絡会事務局
(☎& FAX.048-474-2785 藤井)



活動報告 「柳瀬川へ行こう」
8月24日、「魅せよう、川を」をテーマにした所沢フォーラムのイベントがおこなわれました。

当日は250名の参加者が2チームに分かれ、清掃チームは「柳瀬川をきれいにする会」の活動に合流して、長い製靴を履きポートを引っ張って川の中に捨てられたゴミを集めました。もう一つのチームは川の生き物探しをしたり、森と川の関係についての現地学習をしたりしました。雑木林・畑・踏み固められた場所の比較をしましたが、意外なことに潤の森の土は、多くの人が入っているのに固くなっていることがわかりました。

「文化フォーラム」は11月24日が本番です。皆さんの参加をお待ちしています。
(埼玉県生態系保護協会所沢支部長 足立)

活動報告 「不老川、地図を片手に歩きます」

春から夏にかけて、カメラをぶらさげ、地図を片手に不老川沿いを歩きました。
20代前半から、70代後半までのメンバーが、全長17kmを4回に分けての観察会です。歩いた結果はなかなかいい感じ。「昔の風景みたい」「ザリガニがいるよ。カルガモの親子も」「植物の観察にいいね」「すごい泡、洗濯機みたい」「コンクリートでかかちの護岸は改善したいね」……みんなで会話しながら、楽しい川歩きになりました。これからの活動予定は、歩いた結果感じたことを地図上に記入し、不老川の理想像や現状の問題点などを描いたマップを作ります。

●今後の活動予定 ①不老川マップづくり ②イベント・講演会 ③学習会 ●河川整備学習会 ●川の生態系学習会 ●浄化施設学習会
「川のさきさき」不老川流域づくり市民の会より転載

「ちょっと一言」
越戸川を知っていますか?

和光市と朝霞市の境を流れる越戸川を知っている方は少ないでしょう。家庭雑排水が流入して自然とはほど

遠い汚れた川ですが、折しも下流域護岸を多自然型にする計画もあり、底が砂利で稚魚が棲息するこの小さな川を残すことで、和光市の自然を取り戻すにしたいと思っています。(和光自然環境を守る市民グループ・須貝)



砂川堀探検隊始動!
「下流のこどもたちにトトロの森にある源流を知ってもらおう」
「教材の川マップにはないけれど砂川ってあるんだよ」そんな思いから、9月13日、富士見市・大井町広報で募った親子29名+川懸メンバーら計38名でいざ源流へ。探検ファイルに書きこみながら、大井弁天の森、

三富新田、下富遊水池、森の博物館、そして源流。今後、回を重ねて、隊員と探検ファイルの中身をふやしていくのが楽しみです!(砂川堀懇・松尾)



感じてます。

昨年、エコシティ志木で「柳瀬川沿いを歩く会」を開催し、柳瀬川を最下流の志木市栄橋から源流の狭山湖まで2日間歩き歩きました。途中、川を掃除するグループや泳ぐ子どもたち、ヒナを連れたカルガモなどに遭遇し、川は利用してこそその川、利用するものがあればあるほど元気になるという実感を持ちました。今、月2回「柳瀬川ウォッチング」を行っています。川岸の草を刈り残すという管理のおかげで植物や生き物も多くなり、歩くのが楽しみになってきました。毎回、鳥や植物との思いがけない出会いを楽しんでいます。今後も柳瀬川とうまくつきあっていきたいと思っています。

(エコシティ志木 毛利)

